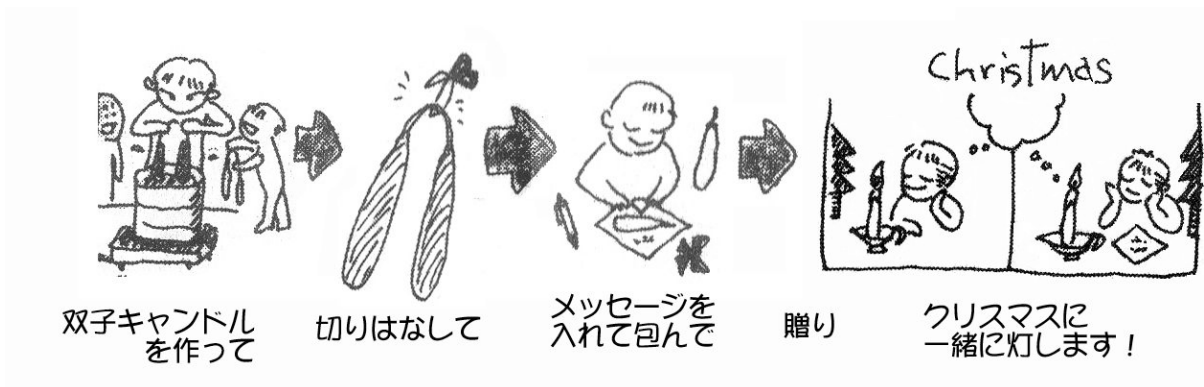


キャンドルリンク 3.11

双子キャンドルの作り方とプロセス



1. 場所

ご自宅や公民館、教室、車庫やピロティーなど屋根のある半屋外、屋外

2. 準備するもの

- ・湯煎用の缶や鍋を2セット

a. ディッピング用の缶

(コーヒー豆の缶や粉ミルクの缶、高さが10センチ以上)

b. aの缶を湯煎するひと回り大きめの缶もしくは鍋

(例:a コーヒー豆缶+b 粉ミルク缶、a 粉ミルク缶+b 鍋など)

補充用のろうを溶かすために、もう1セット

グループとするなら手鍋だと注ぎやすいです。

大人数の時は一斗缶とかオイル缶、塗装用の缶、

金属製のバケツなどを利用します。

- ・湯煎する鍋底に入れる「五徳」

広口瓶のふたや平たい紅茶缶のふたに穴を開けたもの、

または小さな焼き網などで代用します。

火の熱が直接伝わらないようにするためと、沸騰したアブクで缶が持ち上がらないようにするためです。※手鍋のように鍋底が密着しないものは必要ありません。

- ・卓上ガスコンロ ろうがたれてもいいようにアルミホイルで覆います

- ・はさみ ・ナイフもしくはカッター ・軍手

- ・新聞紙・ブルーシート・ひしゃく(大人数の補充用)・温度計

- ・ろう・灯芯

キャンドルショップで購入するか、結婚式場や寺社から廃棄ロウソクを集めて再利用します。

※本部でもお分けいたします。

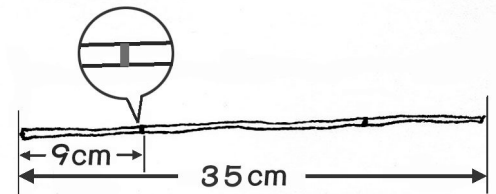
※廃棄ロウソクを再利用される場合は別のマニュアルをご覧ください。

- ・シャンパンやワインのボトル 口に立てて灯せるようにサイズを合わせます
- ・角棒(木) 冷ます時に使います。ぶら下げられるものならなんでもいいです。
- ・包装紙 クリスマスにあったもの
- ・メッセージカード キャンドルリンクサイトよりダウンロードします
- ・ギフトシール 包装紙をとめます。(天使、ハート、クリスマス、星など)
- ・カラフルな筆記用具 メッセージを書きます。サインペンや色鉛筆など
- ・参加者名簿用紙 手紙が届いた際に転送いたしますので必ず書いてもらいます。



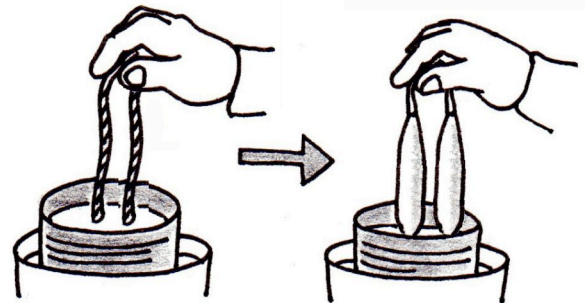
3. 準備

- ・テーブルにシートもしくは新聞紙をかけます。
- ・卓上ガスコンロをテーブルの中央に。
- ・a,bの缶、五徳をセットして湯煎してろうを溶かします。
- ・別のコンロで補充用のろうも溶かしておきます。
- ・色を付けるならクレヨンもしくは市販のカラースティックを混ぜます。
クレヨンは溶けやすいように、薄く削ったものを少しのろうで溶かしてから、全体に混ぜるようにします。
- ・ろうの固まりが少し残る位で火を止めます。
- ・灯芯を **35センチ** に人数分切ります。
10センチ位のキャンドルを作りますので、
それ以上浸けこまないように、あらかじめ **両端 9cm の所に印**をつけておきます。(あえて短めに)



4. 製作

灯芯をろうに浸しては乾かすことを繰り返す
ディッピング（浸け込み式）で作ります。



1. 灯芯全体をろうにくぐらせ染み込ませます。

2. 糸の中央を 4〜5センチくらいの間隔をあけて、
左右同じ長さに **両手で持ちます**。間隔がないと、ろうが太るとくっついてしまいます。
片手でする時は、人差し指と中指を身体側に曲げてぶら下げるとちょうどいい間隔です。

3. 作る人で順番に浸していきます。指を入れないように注意します。

ゆっくり入れて、中にとどめず、ゆっくり引き上げます。

ろうがぬるいとたくさん付き、熱いと付きません。

熱すぎると、下の方が細くなります。

ろうは常に適温の **60度位**になるよう調整します。



4. 冷まします。他の人が浸している時間は付けたろうを冷ます大切な時間です。一人で作る時は **30秒〜1分以上冷まして**から入れます。
冷めるほどたくさん付着します。

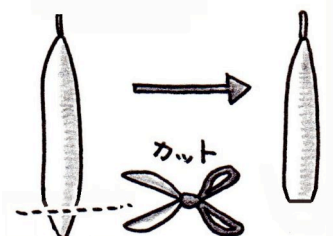
5. ろうが減ってきたら、補充用に溶かしておいたろうを補充します。この時、水滴がろうに入らないように気をつけて下さい。補充用のろうは極弱火で保温しておきます。

6. しばらく浸けていると、下の方が、しずくがたれて固まり伸びてきます。そこには糸が入っていませんから、缶の底にぶつかるようになったらはさみやナイフで切り取ります。

7. 空き瓶の口の穴に、ひっかかる太さになったら少し冷まします。

余り太いと穴に入らなくなりますのでご注意ください。

8. 固くなる前に、空き瓶の口に引っかかる部分を残し平らに切ります。

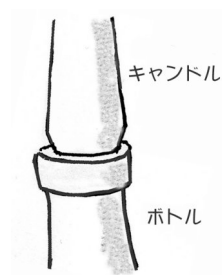


※さらに空き瓶の口にろうを垂らして立てるとくっ付きます。

9. 最後のディッピングを行います。

この時、ろうは少し熱めのほうが、仕上がりがいいです。

10. 完全に固まるまで、曲がらないようにぶら下げて冷まします。



メッセージカード

完全に冷める時間を利用して、メッセージカードを書きます。

- あらかじめキャンドルリンク 3.11 のホームページ/素材より用紙をダウンロードして印刷しておきます。

カラーでも白黒でも大丈夫です。

(用紙は A5 版、A4 に 2 枚デザインしてあります)

- カラフルなサインペンや色鉛筆を用意して下さい。



メッセージについて

- 受け取ったお子さんやご家族の気持ちを配慮したメッセージを書きます。
- 阪神淡路大震災の時は、「**がんばって**」を使わないようにしました。当時、被災者の気分を害する言葉とされていました。「こんなにがんばっているのに、これ以上がんばれない」と思ってしまうのだそうです。私達には被災なさった方の計り知れない辛さや苦勞を分かることはできません。それなのに「分かった」立場に立った言葉を上から投げかけるのは相手を傷つけることになってしまいます。

「大変な生活を肯定し相手を思いやる気持ち」と「被災地復興のために今も私が取り組んでいること」を、長くても短くてもけっこうですのでご記入下さい。大人数で行う時は、じっくりこれらのことを話し合ってから書いて下さい。

- **作り手の住所は、市町村名まで**にします。受け取った方に負担をかけてしまうからです。ただし、参加者名簿は記録しておき本部に教えて下さい。本部宛に手紙が届いた場合は転送いたします。

(デザイン協力/Shika Design)

ラッピング

メッセージカードができたら包装します。

- 冷ましておいたロウソクの糸をいよいよ切り離します。**火を灯す部分を 1~1.5 cm に切ります。**長いままだと点火する時に危険ですので絶対にこの長さを守って下さい。
- クリスマスに合う包装紙を使ってメッセージカードとともに斜め包みます。
- 最後にかわいらしいギフトシールを使ってとめます。完成です！

本部へご連絡下さい

- なるべく 11 月はじめまで、現在の本数とこれから出来上がるおおよその本数を本部まで教えて下さい。それに基づき、もらい手とのリンク作業を始めます。

本部へお送り下さい

- 12 月はじめまで「こわれもの」扱いにして本部にお送り下さい。

- ・参加者名簿はなるべくデータでいただけましたら幸いです。(メールで)
- ・関係のある団体へ直接贈られてもけっこうです。その際は、贈り先と本数、参加者名簿のみを本部へお送り下さい。

その他

- ・経費については参加者の皆さんでご負担をお願いいたします。
- ・不明な点は、気軽にお問い合わせ下さい。

〔ろうの使用量〕

キャンドル 50g (1対2本) + ベース 1kg (コーヒー豆の缶)
1人分 1.05kg (1ベース使用) 5人分 1.25kg (1ベース使用)
10人分 2.5kg (2ベース使用) 20人分 5kg (4ベース使用)



〔灯芯の長さ〕

1人 30cm 5人 1.5m 10人 3m 20人 6m 40人 12m

本部連絡先

キャンドルリンク 3.11 実行委員会
〒990-1573 山形県西村山郡朝日町立木 825-3
ハチ蜜の森キャンドル内 代表 安藤竜二
TEL&FAX 0237-67-3260
ホームページ <http://samidare.jp/candlelink/>
メール mitsurou@alto.ocn.ne.jp

(トップのプロセスのイラストは内澤旬子さん(東京都)、ほかのイラストは小鹿朋美さん(山形市)が描いて下さいました。ありがとうございました。)

5/11 更新